

# サクラの開花調節について

高山 信明\*

広島地方のソメイヨシノの平均開花日は3月30日であるが、昭和62年3月23日から25日の3日間開催された世界蘭会議広島大会に合わせて、戸外に植栽されたソメイヨシノを満開の状態にするため開花促成を行った。その概要と結果を報告する。

サクラ類の開花促成については、鉢物や枝物で研究されており、そのほとんどは、年末から1～2月出荷を目的にし、人工的な低温処理の後に加温して促成させるものである。今回は平均開花日より約10日早く開花させることが目的で、この場合、すでに冬期の低温を経験しているので加温すればよいと考え、ビニールで周囲を被覆し、一時的なビニールハウスを作った。

## 予備実験の方法と結果

昭和60年及び61年の2回、樹齢約15年の開花促進予定木の一枝（長さ約3m）を梨地の農業用ビニールフィルムで被覆した。昼間はビニールの裾を巻き上げて換気を行った。被覆前と被覆中に1回ずつ蕾10個の重量を測定し、広島地方気象台使用の開花日予想グラフで開花の予想を行った。

結果は表1、2に示した。両年とも自然開花より1週間程度開花が促進され、被覆開始後の到花日数は19日と22日であった。また開花から満開までの日数は8日であった。蕾の重量測定による開花予想は、誤差が2日とほぼ正確であった。

ビニールフィルムによる被覆加温の他に、地温上昇効果からの開花促進を考えた黒色ポリエチレンフィルムによるマルチングや、植物ホルモン（ジベレリンやベンジルアデニン）の茎部分への散布或いは根部への注入処理を行ったが、いずれも効果は認められなかった。

## サクラ開花促成の方法と結果

以上の予備実験の結果から、サクラ開花促成の方法をビニールフィルムによる被覆保温と決定した。被覆後満開までの日数は長くて30日と

\*広島市公園協会中央公園事業所勤務

推定できたが被覆開始は計算上よりも早い2月21日とした。これは、開花が遅れるより早い場合の方が容易に調節できると考えたからである。

対象としたソメイヨシノは、植栽されている約20本のうちの8本であった。ビニール被覆の外形は、横約31m、奥行約8m、高さ9mであった。骨格は、建築用の足場用鋼管を用い、被覆ビニールフィルムは周辺をハトメ加工して鋼管とビニールひもで結んだ。被覆後天井部分をクレモナロープで数ヶ所おさえたが、強風のため破損し、2月24日夕方から3月1日までの5日

表1 サクラ開花促成処理による花芽状態の推移

花芽状態	予 備 実 験						本 処 理	
	60 年		61 年		62 年		戸 外	被 覆 内
	戸 外	被 覆 内	戸 外	被 覆 内	戸 外	被 覆 内		
被 覆 開 始	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
花 芽 裂 開		3. 20		3. 20			3. 9	
蕾 出 現、 発 色		3. 23		3. 23			3. 12	
開 花	4. 2	3. 25	4. 4	3. 28	3. 25		3. 15	
満 開	4. 9	4. 2		4. 5			3. 25	

表2 蕾重量測定によるサクラの予想開花日

花芽状態	予 備 実 験						本 処 理	
	60 年		61 年		62 年		戸 外	被 覆 内
	戸 外	被 覆 内	戸 外	被 覆 内	戸 外	被 覆 内		
2 . 15	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
23							3. 18	
26							3. 18	
3 . 6	4. 3		4. 6				3. 19	
8							3. 27	
16			4. 3	3. 28				
18	4. 3	3. 27						

間は被覆中断となった。

結果は表1および表2に示した。昭和62年の3月は外気温が比較的高く、被覆しなかった木が平年より5日早く開花したが、被覆した木はそれより10日早く開花し、目標通り3月25日には満開の状態にすることができ成功であった。なお、到花日数は22日であった。

これらの結果より、この時期でのビニールフィルム被覆による保温では、到花日数が19～22日となり、開花が10日程度促進されると思われる。



サクラのビニール被覆の撤去作業